ピレリ・スーパー耐久シリーズ 2019
第１戦　鈴鹿サーキット

東　徹次郎
TOHJIRO　AZUMA

新たなメンバーも加わった開幕戦はベストタイの４位！！

表彰台も見えていただけに、次に繋がる上々の開幕戦！！

・開催サーキット：鈴鹿サーキット（5.807km）

・レース時間：5 時間

・チーム：T’s concept

・マシン：T’s concept 86 (TOYOTA86)

・カーナンバー：＃28

・クラス：ST-4

・ドライバー：A 東　徹次郎　　B DAISUKE

C ハマダ　タカアキ　　D 小高　一斗

公式予選（3 月 23 日）

◆Weather：晴れ　◆Course：ドライ

　朝一のウォームアップのときは冷えていましたが、日も出て温度も上がった昼からの予選。
コースインしてすぐに 86 号車の背後につき、予選は計測 2 周目でアタックに入ろうとタイヤの熱入れをしていました。
そしてアタックに入った計測 1 周目、2 コーナーでミスをした 86 号車がアタックを止めたことでそれに引っかかってしまいロスしたので、自分もタイヤを温存するためにやめます。
　次の周に気を取り直して 86 号車のスリップストリームも使いながら 2 回目のアタックへ。
しかし今度は自分の思っていた以上に 116 号車の S2000 のストレートが伸びていて、アタックラップの 1 コーナーのブレーキング直前のタイミングでインに入られてしまい、再度アタック出来なくなってしまいます・・・。
この周もアタックをやめて、次の周に自分はアタックに入ります。
S 字の切り替えしなどで少しフロントに荷重が残り過ぎてしまい、若干オーバーステアを出してしまいます。
しかもデグナーを立ち上がるとアタックを止めた車両が数台まとまっていて微妙に引っかかってしまいました。
　このまま連続で次の周もアタックへ。
前の周でオーバーステアが出た部分の乗り方を修正して走り、この周でベストタイムを記録します。
まだタイヤのグリップは感じられたので 1 周クーリングラップを入れて、最後のアタックをしました。
この周はデグナーの飛び込みも更にスピードを上げられたのでセクター2 のタイムが速いタイムで走れていたのですが、最後の 130R で ST-5 クラスのマシンがよりにもよって出口で減速して譲ろうとしてきたので、そのときには背後にいたために追突を回避する為にブレーキング。
結果タイム更新も出来ず、A ドライバー予選を 5 位で終えました。
　B ドライバー予選では自分のときに感じた S 字コーナーなどでのオーバーステアを消すのにフロントのバンプ側を硬くしてもらい、臨んでもらいました。
マシンのフィーリングも良かったようで、DAISUKE 選手は前日の自己ベストタイムを最終ラップに更新し、良い手応えで予選を終えてくれました。

C ドライバー予選ではハマダ選手には練習のつもりで走ってもらい、時間いっぱい走ってもらって全クラス混走のイメージを掴んでもらいました。
D ドライバーの小高選手にはブレーキパッドの焼き入れをお願いしながら、燃料を多く積んで決勝想定のマシンバランスを確認してもらいました。
タイムも出ていますし、小高選手からも乗りやすいとのコメントが返ってきたので、決勝に期待の持てる終わり方になりました。
　予選はA・B合算で8位からのスタートとなりました。

予選結果：8位　4’49.331（A・B合算タイム）

A：2’23.416　B:2’25.915　C:2’31.383　D:2’24.639

決勝（3 月 24 日）

◆Weather：晴れ　◆Course：ドライ

　5 時間の決勝は、DAISUKE 選手 70 分、ハマダ選手 40 分、小高選手 95 分、自分が最後を担当して 95 分という作戦になりました。
DAISUKE 選手はスタートしてすぐに一つポジションを上げてくれて、順調に周回していきます。
そして早々にトラブルでピットに戻る車両や接触して下がってしまう車両が発生する荒れた状況も切り抜けて、一時は 5 位まで上がります。
　そして予定通りハマダ選手へ。
初めてのドライバー交代も無事終えてコースイン。
と、思いきやピットから無線で声をかけてもハマダ選手から無線が返ってきません。
しかし途中でイヤホンが外れていることに気付き、無線のやり取りが出来たので一安心でした。
FCY（フルコースイエロー）もこのスティント時には数回導入されましたが、無事対応出来てクラス 6 位で小高選手へと交代します。
　小高選手のときも FCY があったり、SC（セーフティーカー）が入ったりと荒れた時間帯でした。
その中で、ラップも非常に速い 25 秒台にも入れながら走行してくれて、5 位を走行時点で 3 位、4 位とのマシンにもどんどん追い付いていました。
最後の自分のスティントでも逆転出来るようなイメージが出来てきていました。
自分との交代 15 分前くらいで再度 FCY が入り、燃費の問題もあるのでチームも悩みましたが、少し早いタイミングで最後のドライバー交代をすることを決断します。
しかし、小高選手がピットに入る直前で FCY が解除になり、最悪のタイミングでの交代となってしまいます。
　ガソリンを満タンにし、タイヤも New でコースインします。
少し早いタイミングでの交代でしたので、残り時間 1 時間 45 分くらいはありました。
まずはタイヤも労わりながらエンジン回転を抑えたりして、27 秒台で燃費走行をしていきます。
4 位との差は約 1 周差がありました。
そして少し軽くなってきてからは 26 秒台へ。

終始 3 位、4 位のマシンよりは 2～3 秒速いペースでしたが、ラスト 30 分くらいのところで普通に走ってみるとすぐに 25 秒台に。
自分的にはここでプッシュして更にペースを上げたかったのですが、ラスト 20 分でも現実的には追い付けるギャップではなかったので、チームから労わることと燃費の指示があったので、26 秒台のペースでチェッカーに運ぶドライブに切り替えました。
　すると、ラスト数分で 4 位走行中の 18 号車がトラブルでバックストレート上にストップしたのです。
ファイナルラップ直前で 4 位に上がることに成功し、土壇場で 4 位フィニッシュすることが出来ました。

決勝結果：4 位（自己ベストタイム：2’25.607）

反省

　今回はマシンのセットアップも順調に進み、A ドライバーとしてチームを引っ張りながら良いレースウィークを過ごせたと思います。
予選のタイミングがことごとく裏目に出て、タイヤの本当に良いところでアタック出来なかったこと、位置取り、これが全て予選結果に表れてしまいました。
本当に反省点ですし、次回の予選ではしっかりとアタック出来るようにしなければなりません。
　決勝は非常に良いペースを刻めたと感じています。
自分のスティントでは燃費走行もしながらでしたが、それでも良いペースで走れたことは決勝の強みですし次回のレースにも期待が持てます。
FCY のタイミングで今回大幅にロスしてしまっていたので、チーム全体でその辺りも次のレースに向けてまた打ち合わせしていきたいと思います。

最後に

　今回のレースもたくさんのご支援ご声援、有難うございました。
表彰台も見えていただけに非常に悔しい気持ちもありますが、開幕戦で 28 号車のベストリザルトタイで終われたことは、2019 年シーズンを良い内容でスタート出来たと思います。
また、最後まで諦めないで前を追い続けたからこそ、レース終盤でポジションを上げることが出来たのだと感じています。
　次戦は 4 月 27、28 日にスポーツランド SUGO で 3 時間レースとなります。
このレースは自分、DAISUKE 選手、小高選手で臨みます。
次戦は更に上の順位を狙っていきますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2019 年 3 月 28 日
東　徹次郎